

島根県瑞穂町における注目すべき種子植物

桑原 一司¹⁾・奥田 雅史²⁾

¹⁾ 広島市安佐動物公園・²⁾ 瑞穂町教育委員会

The Noteworthy Seed Plants in Mizuho-cho, Shimane Prefecture

Kazushi KUWABARA¹⁾・Masashi OKUDA²⁾

¹⁾ Asa Zoological Park Hiroshima, Hiroshima 731-3355 and

²⁾ Mizuho-cho Board of Education, Mizuho-cho 696-0393

Abstract: Surveys of the plants in Mizuho-cho have been carried out repeatedly from 1997 to 1999, and a further survey is being planned. As a result, we know for certain that there exist 426 species of flowering plants, and have concluded that special attention is needed for 85 species of them. 14 out of these 85 species are contained in the list of the endangered species announced in the “Red Data Book” compiled by the Environment Agency and the “Shimane Red Data Book” compiled by Shimane Prefecture. Among other species are *Rhododendron ripense* Makino and *Utricularia uliginosa* Vahl, both of which are exclusively seen in this region, and *Lilium leichtlinii* Hook. fil. var. *tigrinum* Nichols., which is declining in numbers in the town. And also included are *Iris ensata* Thurb. with beautiful flowers, *Edgeworthia chrysantha* Lindl indicating the social change in the district, and *Patrina scabiosa* which helps to create the scenic beauty.

© 2000 Geihoku-cho Board of Education. All rights reserved.

はじめに

広島県・島根県・山口県の3県にわたる西中国山地の自然史に関する調査研究は、広島県教育委員会が実施した「三段峡と八幡高原」(1959)に始まり、広島県加計町温井の温井ダム建設に伴う総合学術調査報告書「滝山峡・自然と生活」(1983)などがある。また、1991からは芸北町教育委員会による芸北町自然学術調査が行われ、その成果は本誌「高原の自然史」において年次発表されている。これらにより、西中国山地の中央部から南麓にかけての自然は明瞭になりつつある。一方、島根県側に当たる西中国山地の北麓の自然については総合的な学術調査は行われておらず、情報不足の状況である。著者らは西中国山地の東北端に当たる島根県瑞穂町の自然に関心を持ち、1997年以来動植物の調査観察をしている。今回はその中から瑞穂町の注目すべき種子植物について報告する。

調 査 方 法

1997年5月1日から1999年10月10日までの間に、瑞穂町内の脊梁部を除く全域において総合的な生物に関する調査を実施した。その内、植物に関連した調査は80日、延べ179回であった。季節毎の調査日数は、3月から5月までの春期が21日、6月から8月までの夏期が35日、9月から11月までの秋期が20日、12月から2月までの冬期が4日であった。調査の方法は踏査による観察記録の収集と写真撮影である。

結 果

この間の調査で、426種の種子植物を確認した。その内の85種を瑞穂町における注目すべき種子植物として、その分布や産地の状況を報告する。

注目種としての選定は、次の10のカテゴリーに基づいた。

① 環境庁が刊行したレッド・データ・リスト「我が国における保護上重要な植物種の現状」(1999)に掲載された種。② 「しまねレッドデータブック 島根県の保護上重要な野生動植物 植物編」(1998)に掲載された種。③ 「広島県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックひろしま」(1996)に掲載された種。④ 環境庁「国立公園・国定公園指定植物図鑑」(1984)に掲載された西中国山地国定公園と山陰海岸国定公園の指定植物種。⑤ 島根県「特定地域野生生物緊急調査事業植物調査報告書(杵村 1993)に掲載された種。⑥ 「広島県芸北町における注目すべき種子植物」(斉藤ほか, 1996)に掲載された種。⑦ 瑞穂町において産地・個体数の少ない種。⑧ 瑞穂町において特に減少の著しい種または消滅のおそれのある種。⑨ 瑞穂町の特徴的な自然景観を形成している種。⑩ 保護すべき特定の昆虫と密接な関係にある種。

本調査における植物の産地は、瑞穂町の大字名で示した。また、産地を明確にすべきでない場合は地区名で示した。瑞穂町の地区名と大字名は次の通りである。市木地区は、9つの行政区を合わせて大字市木。田所地区の大字は、上田所、下田所、上亀谷、下亀谷、鱒淵。出羽地区の大字は、三日市、出羽、山田、淀原、岩屋、久喜、大林。高原地区の大字は、上原、原村、和田、高見、伏谷。布施地区の大字は、八色石、布施。

種子植物の和名、学名および次に示す注目すべき種子植物一覧の配列は、大井・北川(1992)に従った。

瑞穂町における注目すべき種子植物一覧

マダケ *Phyllostachys bambusoides* Sieb. et Zucc. (イネ科)

出羽川、八戸川、角谷川などの川土手の各所に群落を作っており、瑞穂町の特徴ある景観を形成している。川土手の改修などにより消滅してしまわないように注目しておく必要がある。確認した生育地(以下生育地と言う。大字名の後の数字は同大字内の生育地の数)：市木、上田所、下亀谷、下田所、出羽、和田、高見、布施等に多数。選定区分：⑨

ヌマガヤ *Moliniopsis japonica* (Hack.) Hayata (イネ科)

町内3ヶ所の湿地で、中規模の群落を確認した。瑞芽の湿地ではマアザミと群落を作り、小河内の湿地では単独の群落をなしていた。生育地：下田所、鱒淵、伏谷。選定区分：⑤分布限定稀産種 ⑥⑧

フトイ *Scirpus tabernaemontani* Gmel. (カヤツリグサ科)

上伏谷の小さな溜池に群生していた。他の溜池では見えていない。生育地：伏谷。選定区分：⑥⑦

オニスゲ *Carex oligosperma* Michx. (カヤツリグサ科)

各所の小湿地に小群落が見られる。生育地：下亀谷2，高見，伏谷。選定区分：⑧

シライトソウ *Chionographis japonica* Maxim (ユリ科)

個体数・生育地ともに少なく、2ヶ所での確認に留まっている。生育地：上田所2。選定区分：⑥⑦

シュロソウ *Veratrum maackii* Regel var. *japonicum* (Baker) T. Shimizu (ユリ科)

上田所の湿り気のある河岸段丘崖にタムラソウなどとともに数十個体が自生している。他には、ここより500mほど離れた山林内で1個体を見たのみで、分布が限られている。生育地：上田所2。選定区分：⑥⑦

ユウスゲ *Hemerocallis vespertina* Hara (ユリ科)

林縁部に単独または数株の小群が見られるのみで、産地・個体数ともにごく少ない。藪の中で咲いていることも多く、草刈りに依存している感はない。生育地：上田所，上亀谷2，下亀谷2，岩屋，高見。選定区分：⑦⑧⑨

ノカンゾウ *Hemerocallis longituba* Miq. (ユリ科)

ヤブカンゾウは町内全域に多数見られるが、ノカンゾウは極めて少ない。2ヶ所で10個体余りを確認したのみである。生育地：上田所，上亀谷。選定区分：⑦⑧

ヤマラッキョウ *Allium thunbergii* G. Don (ユリ科)

上田所や和田の草地や林縁部に生育しているが、あまり多くはない。晩秋の瑞穂の景観を作る種である。生育地：上田所，上亀谷，大林，和田。選定区分：④⑨

コオニユリ *Lilium leichtlinii* Hook. fil. var. *tigrinum* Nichols. (ユリ科)

確認している生育地は、上田所，上亀谷，下亀谷の3ヶ所のみで、個体数も10に満たない。いずれも出羽川の河岸段丘崖である。目立つ花であるだけに採取による消滅の危惧があり、積極的な保護が必要とされる。生育地：上田所，上亀谷，下亀谷。選定区分：④⑥⑦⑧⑨

ササユリ *Lilium japonicum* Thunb. (ユリ科)

聞き取りによると、過去においては町内各所に多数生育していたが、近年急速に消滅して少なくなっている。町内の15ヶ所で確認し、分布は全域に渡っているが、大きな群落はない。消滅の速度が大きく絶滅が危惧される。生育地：市木，上田所6，上亀谷2，下亀谷2，岩屋，久喜，高見2，伏谷，八色石。選定区分：④⑥⑦⑧⑨

アマナ *Tulipa edulis* (Miq.) Baker (ユリ科)

上亀谷の草地に数十個体の小群が生育しているのを確認した。生育地：上亀谷。選定区分：④⑥⑦

エンレイソウ *Trillium smallii* Maxim. (ユリ科)

上亀谷の斜面に30株ほどの群落がある。 生育地：上亀谷。 選定区分：④⑥⑦

ノハナシヨウブ *Iris ensata* Thunb. var. *spontanea* (Makino) Nakai (アヤメ科)

大きな群落はなく、下亀谷や伏谷の田の原の湿地に10から20個体のまとまった群落があるほか、町内各所の湿地に疎らに生育している。 個体数は少なく数えられるほどで、保護が必要である。

生育地：上田所2, 上亀谷, 下亀谷4, 鱒淵2, 三日市, 淀原, 岩屋2, 高見, 伏谷2, 和田。
選定区分：④⑤分布限定稀産種 ⑦⑨

サギソウ *Habenaria radiata* (Thunb.) Spreng. (ラン科)

瑞穂町誌や聞き取りによると、過去においては町内各所の湿地にサギソウが見られたが、現在は3ヶ所において確認できたにすぎない。 田所地区の湿地は開けたところにある明るい湿地で、ここには数百個体の大きい群落が残されている。 他の2ヶ所は山中にある小湿地で、ともに数十個体を数えるにすぎない。 生育地として知られた後木屋の湿地は埋め立てられ消滅しているのを始め、残された湿地でもすでにサギソウは失われている。 なお、田所地区の湿地は教育委員会の管理下にあり、保護されている。 生育地：田所地区, 出羽地区, 高原地区。 選定区分：①絶滅危惧 I B 類 ②要保護種 ③危急種 ④⑤分布限定稀産種 ⑥⑦⑧⑨

ツチアケビ *Galeola septentrionalis* Reichb. fil. (ラン科)

上田所のヒノキ林の林床に生えているのを確認した。 この他、住民による標本採取および写真撮影により生育を確認した場所が2ヶ所ある。 生育地：上田所2, 鱒淵。 選定区分：④⑥⑦

トキソウ *Pogonia japonica* Reichb. fil. (ラン科)

田所地区の湿地で、花後のもの数十個体を確認したのみで、聞き取りによっても生育地を聞かない。 瑞穂町誌によると、1975年頃には岩屋の湿地に群生していたが、今はこの湿地は消滅している。 生息地：田所地区。 選定区分：①絶滅危惧 I B 類 ④⑤分布限定稀産種 ⑥⑦⑧

ヤマトキソウ *Pogonia minor* (Makino) Makino (ラン科)

亀谷の墓地の法面で花後のもの3群数十個体を見つけたが、1999年にはこの法面は開発されており、ここのヤマトキソウは消滅していた。 他の生育地は未確認である。 生育地：下亀谷。
選定区分：④⑦⑧

キンラン *Cephalanthera falcata* (Thunb.) Blume (ラン科)

布施地区の山林内で数個体を確認した。 町内の他の地区でも生育を聞くが未確認である。 個体数が少なく採取圧が高いため絶滅のおそれがあり、採取しないように理解を求めるなど保護が必要である。 生育地：布施地区2。 選定区分：①絶滅危惧 I B 類 ④⑥⑦⑧

カキラン *Epipactis thunbergii* A. Gray (ラン科)

3ヶ所の湿地で中規模の群落を確認した他、湧水のある法面に少数が生育しているのを見た。 聞き取りによると、まだ他にも生育地があるが未確認である。 生育地：田所地区3, 高原地区。
選定区分：④⑥⑦

クモキリソウ *Liparis kumokiri* F. Maekawa (ラン科)

市木聖岩谷と布施奥谷において確認した。 生育地：市木, 布施。 選定区分：④⑦

エビネ *Calanthe discolor* Lindl. (ラン科)

田所地区と布施地区の林内に20~30個体の群生を確認した。 過去には町内全体に多く分布して

いたが、現在は稀な種になっている。 生育地：田所地区，布施地区。 選定区分：①絶滅危惧 I B 類 ②要保護種 ③危急種 ④⑦⑧

ナツエビネ *Calanthe reflexa* Maxim. (ラン科)

稀な種であるが、田所地区で2個体を確認した。1個体は山林内であったが、もう1個体は人里の雑木林の林床であり、過去においては身近な種であったと思われる。 生育地：田所地区2。 選定区分：①絶滅危惧 I B 類 ②要保護種 ③危急種 ④⑤人為的減少種 ⑦⑧

サルメンエビネ *Calanthe tricarinata* Lindl. (ラン科)

田所地区の山林で1個体を見つけた。過去には生育地も多く見られたようだが、現在では極めて稀な種となっている。 生育地：田所地区。 選定区分：①絶滅危惧 I B 類 ②要保護種 ③危急種 ④⑥⑦⑧

セッコク *Dendrobium moniliforme* (Linn.) Sw. (ラン科)

布施地区の大木の枝に1群を確認した。過去においては田所地区などにもあったらしいが、現在では極めて稀な種になっている。 生育地：布施地区。 選定区分：④⑦⑧

フタリシズカ *Chloranthus serratus* (Thunb.) Roem. et Schult. (センリョウ科)

町内での生育地は多くなく、小群落である。 生育地：上田所2，八色石。 選定区分：⑦

カワラハンノキ *Alnus serrulatoides* Callier (カバノキ科)

下伏谷の出羽川の岸などに生育していた。 生育地：伏谷，和田。 選定区分：⑤地域特産重要種 土地的極相等重要植生

ウラジロガシ *Quercus salicina* Blume (ブナ科)

町内では標高350mほどの地点で確認している。 生育地：市木2，高見。 選定区分：⑤垂直分布限界重要種

ミヤコアオイ *Asarum asperum* F. Maekawa (ウマノスズクサ科)

カンアオイの少ない地域ではあるが、出羽川や角谷川沿いの地域に少数が散在している。3ヶ所で確認した。 生育地：下亀谷，出羽，布施。 選定区分：⑤要保護動物重要種 ⑦⑧⑩

ウマノスズクサ *Arisutolochia debilis* Sieb. et Zucc. (ウマノスズクサ科)

上亀谷の草地で、ジャコウアゲハの幼虫とともに確認しているが、他では見かけない。 生育地：上亀谷。 選定区分：⑦⑩

カワラナデシコ *Dianthus superbis* Linn. var. *longicalycinus* (Maxim.) (ナデシコ科)

町内では、4ヶ所で十数個体を見た。意外に生育地、個体数ともに少なく、消滅するおそれがある。 生育地：市木，岩屋，高見，八色石。 選定区分：⑦⑧⑨

フシグロセンノウ *Lichnis miqueliana* Rohrb. (ナデシコ科)

町内の数ヶ所で見かけたが、個体数が少ない。和田の生育地は民家の裏山に当たるためよく保護されており、林縁の斜面一面に咲いていた。花の採取を控えるなどの保護が必要である。 生育地：市木，上田所2，下亀谷，下田所，和田。 選定区分：⑥⑦⑧⑨

オキナグサ *Pulsatilla cernua* (Thunb.) Spreng. (キンボウゲ科)

町内の4ヶ所においてのみ生育している。布施地区の生育地では、1980年代までは川原に自生していたが、それが消滅し、近接する舗装道のアスファルトの間隙に根をおろし自生するようになった。田所地区の生育地は、近隣の愛好者が川原に自生していたものを番種したものであると

聞く。やはり、川原にはなく、アスファルトの間隙に生えている。生育地、個体数ともに少なく保護を必要とするが、各生育地ともに、重要性を認識している保護者がいることは幸いである。生育地：田所地区 2，布施地区 2。選定区分：①絶滅危惧 I B 類 ②要保護種 ③危急種 ④⑤分布限定稀産種 ⑦

イチリンソウ *Anemone nikoensis* Maxim. (キンポウゲ科)

町内の川土手や日当たりのよい林縁に生育している。高見には 1ヶ所大きな群落があるが、他の生育地は小群落である。分布は町内全域に渡っており 8ヶ所で確認したが、生育地、個体数ともに少なく、保護が必要である。花期以外では目立たないため、護岸整備などで気がつかないうちに生育地が破壊されるおそれがあり、生育地の認識が重要である。生育地：市木，上田所 2，上亀谷 2，下亀谷，鱒淵，高見。選定区分：④⑦⑧⑨

サラシナショウマ *Cimicifuga simplex* Wormsk. (キンポウゲ科)

上亀谷の斜面に群落があるのを見た他は、小湿地に少数を見たのみで、生育地、個体数ともに少ない。生育地：市木，上亀谷，三日市。選定区分：⑥⑦

エンコウソウ *Caltha palustris* Linn. var. *membranacea* Turcz. forma *decumbens* Makino (キンポウゲ科)

布施地区の小湿地に小さな 1群があるのみで、他には見ていない。この生育地は保護者により管理されている。生育地：布施地区。選定区分：②リュウキンカとして要保護種 ④⑤リュウキンカとして記載 県レベル重要種 ⑥リュウキンカとして掲載 ⑦

ムラサキケマン *Corydalis incisa* (Thunb.) Pers. (ケシ科)

町内には多くない。瑞穂町の春の風物詩としてウスバシロチョウがあり、その食草として認識し注目したい。生育地：市木 2，上亀谷 2，伏谷。選定区分：⑩

ナガミノツルキケマン *Corydalis raddeana* Regel (ケシ科)

下対，新山で見ているのみである。生育地：鱒淵 2。選定区分：⑦⑩

モウセンゴケ *Drosera rotundifolia* Linn. (モウセンゴケ科)

3ヶ所の湿地と 2ヶ所の湧水斜面で生育を確認した。湿地にある群落は数百の個体をもち安定しているが、斜面のものは個体数も少なく不安定である。聞き取りによると、過去には多く見かけたが、今は少ないという。生育地：田所地区 3，出羽地区，高原地区。選定区分：④⑦⑧

シラヒゲソウ *Parnassia foliosa* Hook. fil. et Thoms. var. *nummularia* (Maxim) T.Ito (ユキノシタ科)

田所地区の 2ヶ所で数十個体の群落を確認したが、他には見ていない。聞き取りによる情報もなく、生育地は極めて少ない。生育地：田所地区 2。選定区分：④⑤分布限定稀産種 ⑥⑦⑧

アテツマンサク *Hamamelis japonica* Sieb. et Zucc. var. *bitchuensis* (Makino) Ohwi (マンサク科)

町内の山地にまばらに分布する。生育地：上田所 2，高見 2，布施 2。選定区分：①準絶滅危惧 ⑤地域特産重要種 ⑨

コウヤミズキ *Corylopsis gotoana* Makino (マンサク科)

限られた産地だけに分布する種で、布施地区での生育が知られているが、今回、伏谷の溪流沿いでも確認した。生育地：布施，伏谷。選定区分：②要保護種 ⑤地域特産重要種 ⑦⑨

ヤマブキ *Kerria japonica* (Linn.) DC. (バラ科)

鱒淵の臼谷の国道沿いの山際と新山に小群落を見た。瑞穂町内では最も標高の低い地域である。
生育地：鱒淵2。 選定区分：⑦⑨

ワレモコウ *Sanguisorba officinalis* Linn. (バラ科)

里山を代表する普通種であるが、町内にはまとまって生えている所は少ない。里山景観として重要な種であり、ゴマシジミの食草としても保護すべき種である。 生育地：上田所，下亀谷4，鱒淵4，岩屋2，八色石，布施。 選定区分：⑧⑨⑩

ニワフジ *Indigofera decora* Lindl. (マメ科)

「里山の自然」(田端英雄 1997)において里山の気になる植物として取り上げられている種である。高見地区の田の畦と、田所地区の廃屋の石垣の間に数個体を見つけた。瑞穂町内でも個体数の少ない種である。 生育地：田所地区，高見地区。 選定区分：⑦ (チョウセンニワフジは①準絶滅危惧種)

ピッチュウフウロ *Geranium yoshinoi* Makino (フウロソウ科)

出羽川沿いの河岸段丘の湿り気のある崖下にごく少数が自生している。下亀谷のものは30株ほどの群落で、和田のものは数株の小群である。脊梁部の分布は不詳であるが、町内での分布は限られている。注目種とし、保護すべきである。 生育地：下亀谷，和田。 選定区分：⑥⑦⑧

エゾユズリハ *Daphniphyllum macropodum* Miq. var. *humile* (Maxim.) Rosenthal (トウダイグサ科)

上亀谷と岩屋神社の境内に群生していた。 生育地：上亀谷，岩屋。 選定区分：⑤ (日本海側山地に特有な分布型の植物) ⑥

イヌウメモドキ *Ilex serrata* Thunb. forma *argutidens* (Miq.) Kurata (モチノキ科)

湿地や川沿いに見られる。 生育地：上亀谷，下亀谷。 選定区分：⑤分布限定稀産種

キツリフネ *Impatiens noli-tangera* Linn. (ツリフネソウ科)

市木の猪子谷でしか確認できなかったが、聞き取りによると八色石にもあるという。猪子谷ではツリフネソウと隣接して生育していた。 生育地：市木。 選定区分：⑦

ナツツバキ *Stewartia pseudo-camellia* Maxim. (ツバキ科)

市木や上田所など中国山地脊梁部の山中に花をつけている数個体を見た。 生育地：市木，上田所。 選定区分：⑥⑦⑨

ミツマタ *Edgeworthia chrysantha* Lindl. (ジンチョウゲ科)

かつて石見和紙の生産地として植樹したミツマタが町内各地の谷に野生化して少しずつ残っている。個体数も少なく、脆弱化した個体が多いので、消滅するおそれがある。瑞穂町の歴史を示す植物として、また、早春の景観を作る種として保護することが望ましい。 生育地：市木，鱒淵，大林，布施4。 選定区分：⑧⑨

アキグミ *Elaeagnus umbellata* Thunb. (グミ科)

川辺に生え、春の花期にはアゲハチョウ類やアオバセリなどの吸蜜が著しい。チョウ類の保護上および春の景観種として注目し、保護することが望ましい。 生育地：市木，久喜。 選定区分：⑨⑩

オオマツヨイグサ *Oenothera erythrosepala* Borbás (アカバナ科)

瑞穂町に多いのはメマツヨイグサであるが、オオマツヨイグサも所々に咲いている。個体数は多くなく、夏の景観種として注目したい。生育地：上田所，上亀谷，下亀谷，下田所。選定区分：⑨

シラネセンキュウ *Angelica polymorpha* Maxim. (セリ科)

秋の川辺に所々花がみられる。生育地：市木，上亀谷，出羽。選定区分：⑥

シシウド *Angelica pubescens* Maxim. (セリ科)

瑞穂町での生育地はあまり多くない。市木猪子谷，滝が谷，上亀谷では群落が見られたが，単独のものが多く，個体数も多くない。生育地：市木3，上田所2，上亀谷3。選定区分：⑦

⑨

オオイワカガミ *Shortia soldanelloides* (Sieb. et Zucc.) Makino var. *maguna* Makino (イワウメ科)

里近い雑木林のなかに生育地が点在していた。生育地：市木，上亀谷，鱒淵。選定区分：④⑤分布限界重要種 ⑥

ギンリョウソウ *Monotropastrum globosum* H. Andr. ex Hara (イチヤクソウ科)

小河内の住人が6月に自宅裏山で採集したのを確認した。それ以外では見ていない。生育地：下田所。選定区分：⑦

バイカツツジ *Rhododendron semibarbatum* Maxim. (ツツジ科)

上田所の林縁部に咲いているのを確認した。瑞穂町誌によると1970年頃には円の板などに多く自生とのこと。生育地：上田所，伏谷。選定区分：⑦

キシツツジ *Rhododendron ripense* Makino (ツツジ科)

下伏谷の出羽川，円の板川などの岩盤性の河岸に生育していた。生育地：高見，伏谷。選定区分：③希少種 ⑤地域特産重要種，土地的極相等重要植生 ⑥⑧⑨

ダイセンミツバツツジ *Rhododendron lagopus* Nakai (ツツジ科)

岩屋などでコバノミツバツツジ *R. wadanum* Makino に混じって自生している。コバノミツバツツジよりも開花がやや遅く，花色が濃い。生育地：市木，上田所，岩屋。選定区分：④⑦⑨

レンゲツツジ *Rhododendron japonicum* (A. Gray) Suringer (ツツジ科)

3ヶ所の湿地の周辺で確認したが，単独か小群で，個体数が少ない。生育地：田所地区2，出羽地区。選定区分：④⑤分布限定稀産種 ⑥⑦

クサレダマ *Lysimachia vulgaris* Linn. var. *davurica* (Ledeb.) R. Knuth (サクラソウ科)

町内の小湿地や休耕田に見られる。休耕田にあるものは耕作によって急に消滅して不安定である。金淵の堰堤上の溜まりや下亀谷の湿地には安定した群落がある。生育地：上田所，上亀谷2，下亀谷2，鱒淵，岩屋，三日市，上原，高見，伏谷，布施。選定区分：⑧⑨

ヌマトラノオ *Lysimachia fortunei* Maxim. (サクラソウ科)

各所の湿地に小～中規模の群落が見られる。現時点では町内では個体数は少なくはないが，湿地の消失とともに消滅するおそれがあるので，注目しておく必要がある。生育地：下亀谷4，鱒淵，岩屋，高見。選定区分：⑤分布限定稀産種 ⑧

クリンソウ *Primula japonica* A. Gray (サクラソウ科)

山中の廃屋の周辺に、15個体ほどが半野生化している。これは、植えられたものであろうが、近隣の山から採取された可能性がある。 生育地：田所地区。 選定区分：③危急種 ⑦

オオバアサガラ *Pterostyrax hispida* Sieb. et Zucc. (エゴノキ科)

瑞穂町には、オオバアサガラとアサガラ *P. corymbosa* Sieb. et Zucc. がある。市木滝が谷では本種のみであるが、上田所の道明においては両種が混在している。また、市木、田の迫、八色石などにはアサガラがある。川辺の雑木であり注目度は低いが、初夏に美しい白い花を咲かせ目立つので、本種を景観種として挙げた。 生育地：市木、上田所、鱒淵。 選定区分：⑦⑧⑨

センブリ *Swertia japonica* (Schult.) Makino (リンドウ科)

聞き取りによると近年あまり見かけなくなったという。下亀谷や和田において20個体余りの群落を確認した。 生育地：下亀谷、和田。 選定区分：④⑧

アケボノソウ *Swertia bimaculata* (Sieb. et Zucc.) Hook. et Thoms. (リンドウ科)

湿地や湿り気のあるところに生育している。上亀谷の湧水斜面に百数十個体が群生しているのを除いて、他の生育地では小規模な群落か単独で、個体数はあまり多くない。 生育地：市木2、上田所4、上亀谷2、下亀谷、鱒淵、岩屋、八色石。 選定区分：⑧⑨

フデリンドウ *Gentiana zollingeri* Fawcett (リンドウ科)

上亀谷の芝草地などに数個体を見た。 生育地：上亀谷、鱒淵。 選定区分：⑦

リンドウ *Gentiana scabra* Bunge var. *buergeri* (Miq.) Maxim. (リンドウ科)

田所地区の湿地の周辺に少数個体が群生しているのを見たのみで、単独で生えていることが多い。生育地、個体数ともに少ない。 生育地：上田所、下亀谷、八色石。 選定区分：④⑦⑧

デワノタツナミソウ *Scutellaria muramatsui* Hara (シソ科)

赤馬滝の辺に咲いていた。 生育地：布施。 選定区分：⑤分布限界重要種 ⑦

キバナアキギリ *Salvia nipponica* Miq. (シソ科)

市木と上亀谷の谷筋に数十個体の群落を確認したほか、町内山域各所に小群が見られる。少なくともは少ないが、消滅しないように認識しておく必要がある。 生育地：市木3、上亀谷2、大林、和田。 選定区分：⑧⑨

ママコナ *Melampyrum roseum* Maxim. (ゴマノハグサ科)

町内各所の林縁部に生育している。今は普通種であるが、半寄生植物としての特性があるため環境の変化に弱く、減少のおそれがあるので注目種にあげた。 生育地：上田所3、上亀谷2、下亀谷2、山田、高見。 選定区分：⑧⑨

ナンバンギセル *Aeginetia indica* Linn. var. *gracilis* Nakai (ハマウツボ科)

岩屋の日高儀助氏の野草園でミョウガに寄生している群落が見られた。日高氏によると、これは20年ほど以前に下亀谷に自生していたのを移植したものとのことである。下亀谷では未確認。

生育地：岩屋。 選定区分：⑦

ムラサキミミカキグサ *Utricularia uliginosa* Vahl (タヌキモ科)

本種は瑞穂町の湿地を特徴付ける種である。3ヶ所の湿地で群落が保たれていることを確認した。各群落の個体数は比較的多い。しかし、田所地区の湿地では水位の変化が激しく、本種の花が見られない年があるなど不安定な要素を含んでいる。 生育地：田所地区、出羽地区、高見地区。 選定区分：①絶滅危惧 I B 類 ④⑤分布限定稀産種 ⑦⑧⑨

ミミカキグサ *Utricularia bifida* Linn. (タヌキモ科)

田所地区の湿地でムラサキミミカキグサに混じって生えているのを確認した。個体数は極く少ない。生育地：田所地区。選定区分：④⑤分布限定稀産種 ⑦⑧

オミナエシ *Patrinia scabiosaefolia* Fisch. (オミナエシ科)

町内各所に小群落が見られる。上田所には1ヶ所大きな群落が見られるが、町全体ではまとまって生えているところは少なく、個体数はそれほど多くない。一般に減少している種であり注目しておく必要がある。生育地：市木、上田所3、上亀谷、下亀谷、鱒淵、岩屋、大林、和田、高見、伏谷、布施。選定区分：⑧⑨

ナベナ *Dipsacus japonicus* Miq. (マツムシソウ科)

上田所の田の迫の川岸に5個体を見たのみである。生育地：上田所。選定区分：⑦

マツムシソウ *Scabiosa japonica* Miq. (マツムシソウ科)

瑞穂町には自生しないと言われているが、岩屋の日高義助氏の野草園に2年前から出現しはじめたという。10個体ほどを確認した。持ち込まれたものではあるが、今後拡大定着する可能性もあるので記載した。生育地：岩屋。選定区分：④⑥⑦

ホタルブクロ *Campanula punctata* Lam. (キキョウ科)

里山を代表する普通種であるが、町内での生育地は比較的少ない。生育地：市木4、上亀谷、下亀谷、伏谷。選定区分：⑧⑨

キキョウ *Platycodon grandiflorum* (Jacq.) A.DC. (キキョウ科)

生育地も個体数もまばらで少ない。ほとんどが単独である。人為的に墓所などに植えられたもので逸出と思われるものもあるが、下亀谷や高見では湿地の周辺部に自生しているキキョウを確認した。生育地：市木、上田所、下亀谷2、和田、高見、伏谷。選定区分：①絶滅危惧I B類 ④⑦⑧⑨

サワギキョウ *Lobelia sessilifolia* Lam. (キキョウ科)

文献や聞き取りによると、過去においては湿地各所に大きな群落が見られたが、現在は生育地、個体数ともに極く少ない。開発、埋め立てによる湿地の喪失、樹林の被覆による低照度化などが消滅の原因とみられる。生育地：田所地区2、出羽地区、高原地区。選定区分：④⑥⑦⑧⑨

オタカラコウ *Ligularia fischeri* (Ledeb.) Turcz. (キク科)

小湿地に小群を見たのみで生育地、個体数ともに少ない。生育地：上田所、上亀谷2、大林。選定区分：④⑦⑧⑨

リュウノウギク *Chrysanthemum makinoi* Matsum. et Nakai (キク科)

市木滝が谷の崖の1ヶ所にのみ、数十個体が群生しているのが見られた。生育地：市木。選定区分：⑥⑦

マアザミ *Cirsium sieboldii* Miq. (キク科)

町内各所の湿地に群落を作って生育しているが、あまり大きな群落は見られない。現時点においては普通種であるが、湿地の喪失とともに減少するおそれがある。生育地：上田所3、上亀谷、下亀谷2、鱒淵2、三日市、岩屋、大林、和田、高見、伏谷3、布施2。選定区分：⑥⑧⑨

タムラソウ *Serratula coronata* Linn. var. *insularis* (Iljin) Kitam. (キク科)

町内各所の湿地周辺や湿り気のある斜面に生育している。上亀谷，下田所，和田，大林では数十個体の群生を見ているが，他では小群である。瑞穂では，湿地周辺よりも，段丘崖などの湿り気のある斜面に多く生育している。生育地：市木，上田所3，上亀谷4，下亀谷3，鱒淵2，淀原，大林，和田，伏谷2，布施。選定区分：⑥⑨

まとめと考察

1. レッドデータブックの掲載種について

環境庁「レッドリスト」「しまねレッドデータブック」「レッドデータブックひろしま」のいずれかに掲載されている絶滅のおそれのある種で，瑞穂町で確認した種は，サギソウ，トキソウ，キンラン，エビネ，ナツエビネ，サルメンエビネ，オキナグサ，エンコウソウ（リュウキンカ），アテツマンサク，コウヤミズキ，キシツツジ，クリンソウ，ムラサキミミカキグサ，キキョウの14種であった。これらの種は瑞穂町においても産地や個体数が少なく，採取圧や環境の変化のなかで絶滅してしまうおそれがあるものがほとんどである。オキナグサとサギソウについては町民のなかに希少植物としての認識があり，生育地の一部は保護下にあるが，キンラン，エビネ類，キキョウについては一般に保護種としての認識が明確でなく，現況では採取による絶滅にさらされている。また，サギソウとムラサキミミカキグサは瑞穂町の湿地を特徴付ける種である。しかし，生育地である小湿地の多くが，生育地としての認識がないままに開発され消滅していく危険性が残されている。

この14種の他に，瑞穂町に分布するとされるが確認できなかった種は，ミズトンボ，キエビネ，カザグルマ，ヤマシャクヤク，キレンゲショウマ，ナツアサドリ，アラゲナツハゼである。このうち，キエビネ，ヤマシャクヤクについては町内の野草愛好家から町内での自生を聞いている。また，ナツアサドリ，アラゲナツハゼについては，杵村（1993）が確認し「しまねレッドデータブック」（1997）にも記載がある。

2. 「指定植物図鑑」掲載種について

環境庁は1984年に，国立公園，国定公園に自生する植物のうち規制しなければ絶滅のおそれのある重要種を選択し，「指定植物図鑑」を刊行した。この中で瑞穂町に関係があるのは，西中国山地国定公園と，山陰海岸国定公園での指定種である。

西中国山地国定公園の指定種となっている瑞穂町の注目種は，ヤマラッキョウ，コオニユリ，アマナ，エンレイソウ，ノハナショウブ，サギソウ，ツチアケビ，トキソウ，キンラン，カキラン，クモキリソウ，ナツエビネ，サルメンエビネ，セッコク，オキナグサ，イチリンソウ，エンコウソウ，モウセンゴケ，シラヒゲソウ，オオイワカガミ，ダイセンミツバツツジ，リンドウ，マツムシソウ，キキョウの24種であり，山陰海岸国定公園の指定種となっている瑞穂町の注目種は，コオニユリ，ササユリ，エンレイソウ，キンラン，エビネ，セッコク，イチリンソウ，オオイワカガミ，センブリ，キキョウの10種である。その他，瑞穂町の注目種に挙げた種で両国定公園以外の国定公園の指定種になっているものとしては，ヤマトキソウ，レンゲツツジ，ムラサキミミカキグサ，ミミカキグサ，サワギキョウ，オタカラコウがあった。共通種を除くと西中国山

地国定公園のみの指定種は18種、山陰海岸国定公園のみの指定種は2種で、瑞穂町の植物相は西中国山地との繋がりが深く、一方、三瓶山を含む山陰海岸国定公園との繋がりは比較的弱いことが窺える。

3. 鳥根県特定地域野生生物緊急調査事業報告書掲載種との関連について

1993年に鳥根県が刊行した同報告書には、杵村によって鳥根県内7地域において確認された保護が必要とされる重要植物種が掲載されている。瑞穂町に関しては田所地区と市木地区の調査が行われ、それぞれ21種と9種が重要な種として報告されている。この報告書に掲載された種の中で、今回の調査において確認された種は次のとおりである。

分布限定稀産種：ヌマガヤ、ノハナショウブ、サギソウ、トキソウ、オキナグサ、エンコウソウ、シラヒゲソウ、イヌウメモドキ、レンゲツツジ、ヌマトラノオ、ムラサキミミカキグサ、ミミカキグサ。 分布限界重要種：オオイワカガミ、デワノタツナミソウ。 垂直分布限界重要種：ウラジロガシ。 地域特産重要種：カワラハンノキ、アテツマンサク、コウヤミズキ、キシツツジ。 要保護動物重要種：ミヤコアオイ。 人為的減少種：ナツエビネ。 その他日本海側山地特有種としてエゾユズリハ。 同報告書に掲載されているが、今回の調査で未確認のまま残った種としては、カワズスゲ、コバノトンボソウ、ミズトンボ、スイラン、コバギボウシ、アラゲナツハゼ、ナツアサドリ、ツクシミノボロスゲ、アカモノ、ギンバイソウ、タンナトリカブト、ヒメバライチゴ、ホクチアザミが挙げられ、これらを加えた種が、瑞穂町における学術上の重要種と見なされる。

4. 芸北町の注目種との関連について

広島県芸北町では「広島県芸北町における注目すべき種子植物」が齊藤ほか(1995)により選定されている。瑞穂町の注目すべき種子植物85種の中で、芸北町の注目種に該当するものが32種あり(表1)、指定植物のところで見たと同様に、両町の重要な植物種の間にはかなりの共通性が見られる。ただ、その密度については違いの見えるものが多い。コオニユリは瑞穂町では3ヶ所で10個体ほどを確認できたにすぎず、シュロソウも2ヶ所で、ビッチュウフウロも今のところ2ヶ所で小群を見ているにすぎない。また、芸北町では個体数が比較的多く注目種に挙げられていない種の中に、瑞穂町では個体数が少ないために注目種として取り上げたものが少なくない。ノハナショウブ、クサレダマ、ノカンゾウ、アケボノソウ、ユウスゲ、シシウド、オタカラコウ、モウセンゴケなどである。これら高原性の植物は瑞穂町では個体数が少なく、重要な種として注目し保護するべきものである。この他、芸北町の代表的な植物で瑞穂町では確認できていない種には、コバイケイソウ、ヒメザゼンソウ、ミズチドリ、リュウキンカ、ハンカイソウ、タンナトリカブト、ウメバチソウなどがある。この内、コバイケイソウ、ヒメザゼンソウ、ミズチドリについては生育しているという情報がなく、分布していない可能性が強い。一方、ハンカイソウ、タンナトリカブトについては町内に生育しているとの情報を得ている。リュウキンカについてはエンコウソウが1ヶ所確認されている。

一方、芸北町の種子植物目録(齊藤ほか1997)に記録がない種で、瑞穂町には生育している注目種は、オニスゲ、アマナ、ヤマトキソウ、セッコク、オキナグサ、イチリンソウ、ナガミノ

表1-1 島根県瑞穂町の注目すべき種子植物一覧

選定区分：①環境庁「レッドリスト」掲載種 ②「しまねレッドデータブック」掲載種 ③「レッドデータブックひろしま」掲載種 ④環境庁「指定植物図鑑」掲載種 ⑤「島根県特定地域野生生物緊急調査報告書」掲載種 ⑥「広島県芸北町における注目すべき種子植物」掲載種 ⑦瑞穂町における産地・個体数の少ない種 ⑧瑞穂町において消滅のおそれのある種 ⑨瑞穂の景観をつくる種 ⑩保護すべき特定の昆虫と密接な関係がある種

種名	選定区分	種名	選定区分
マダケ	⑨	ミヤコアオイ	⑤ ⑦ ⑧ ⑩
スマガヤ	⑤ ⑥ ⑧	ウマノスズクサ	⑦ ⑩
フトイ	⑥ ⑦	カワラナデシコ	⑦ ⑧ ⑨
オニスゲ	⑧	フシグロセンノウ	⑥ ⑦ ⑧ ⑨
シライトソウ	⑥ ⑦	オキナグサ	① ② ③ ④ ⑤ ⑦
シュロソウ	⑥ ⑦	イチリンソウ	④ ⑦ ⑧ ⑨
ユウスゲ	⑦ ⑧ ⑨	サラシナショウマ	⑥ ⑦
ノカンゾウ	⑦ ⑧	エンコウソウ	② ④ ⑤ ⑥ ⑦
ヤマラッキョウ	④ ⑨	ムラサキケマン	⑩
コオニユリ	④ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨	ナガミノツルクケマン	⑦ ⑩
ササユリ	④ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨	モウセンゴケ	④ ⑦ ⑧
アマナ	④ ⑥ ⑦	シラヒゲソウ	④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧
エンレイソウ	④ ⑥ ⑦	アテツマンサク	① ⑤ ⑨
ノハナショウブ	④ ⑤ ⑦ ⑨	コウヤミズキ	② ⑤ ⑦ ⑨
サギソウ	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨	ヤマブキ	⑦ ⑨
ツチアケビ	④ ⑥ ⑦	ワレモコウ	⑧ ⑨ ⑩
トキソウ	① ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧	ニワフジ	⑦
ヤマトキソウ	④ ⑦ ⑧	ピッチュウフウロ	⑥ ⑦ ⑧
キンラン	① ④ ⑥ ⑦ ⑧	エゾユズリハ	⑤ ⑥
カキラン	④ ⑥ ⑦	イヌウメモドキ	⑤
クモキリソウ	④ ⑦	キツリフネ	⑦
エビネ	① ② ③ ④ ⑦ ⑧	ナツツバキ	⑥ ⑦ ⑨
ナツエビネ	① ② ③ ④ ⑤ ⑦ ⑧	ミツマタ	⑧ ⑨
サルメンエビネ	① ② ③ ④ ⑥ ⑦ ⑧	アキグミ	⑨ ⑩
セッコク	④ ⑦ ⑧	オオマツヨイグサ	⑨
フタリシズカ	⑦	シラネセンキュウ	⑥
カワラハンノキ	⑤	シシウド	⑦ ⑨
ウラジロガシ	⑤	オオイワカガミ	④ ⑤ ⑥

表1-2

種名	選定区分	種名	選定区分
ギンリョウソウ	⑦	ママコナ	⑧ ⑨
バイカツツジ	⑦	ナンバンギセル	⑦
キシツツジ	③ ⑤ ⑥ ⑧ ⑨	ムラサキミミカキグサ	① ④ ⑤ ⑦ ⑧ ⑨
ダイセンミツバツツジ	④ ⑦ ⑨	ミミカキグサ	④ ⑤ ⑦ ⑧
レンゲツツジ	④ ⑤ ⑥ ⑦	オミナエシ	⑧ ⑨
クサレダマ	⑧ ⑨	ナベナ	⑦
スマトラノオ	⑤ ⑧	マツムシソウ	④ ⑥ ⑦
クリンソウ	③ ⑦	ホタルブクロ	⑧ ⑨
オオバアサガラ	⑦ ⑧ ⑨	キキョウ	① ④ ⑦ ⑧ ⑨
センブリ	④ ⑧	サワギキョウ	④ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
アケボノソウ	⑧ ⑨	オタカラコウ	④ ⑦ ⑧ ⑨
フデリンドウ	⑦	リュウノウギク	⑥ ⑦
リンドウ	④ ⑦ ⑧	マアザミ	⑥ ⑧ ⑨
デワノタツナミソウ	⑤ ⑦	タムラソウ	⑥ ⑨
キバナアキギリ	⑧ ⑨		

ツルキケマン、コウヤミズキ、ヤマブキ、ニワフジ、イヌウメモドキ、キツリフネ、ミツマタ、クリンソウ、ナベナの15種があった。オキナグサ、イチリンソウ、ヤマブキなどは低山性の植物であり、人為的な移植種であるニワフジ、ミツマタなどとともに瑞穂町の里山としての特徴を裏付ける種である。

5. 瑞穂町において著しく減少している種について

希少植物の減少は絶滅に繋がるが、瑞穂町においても減少の著しい種がある。瑞穂町は田所地区、出羽地区、高原地区に多くの湿地が散在し、瑞穂町誌によると1970年代まではサギソウやサワギキョウが各所に群生していた。しかし、現在においては、サギソウが確認できた湿地は3ヶ所、サワギキョウも4ヶ所に留まっている。これらの種は急速に失われており、放置すると絶滅すると思われる。

ササユリについても減少が著しい。町民が証言しているように、かつては多数が自生していたが、現在では少数が散在しているに過ぎない。3ヶ年の調査の中で記録できたのは15ヶ所で数十個体である。草刈りが行われなくなり生育地が藪になったこと、採取圧が高いことなどが減少の要因と思われる。

瑞穂町で消滅が危惧される種⑧として40種を挙げたが、その概念は次の4つである。湿地環境の消滅による減少種：ヌマガヤ、オニスゲ、サギソウ、トキソウ、モウセンゴケ、シラヒゲソウ、クサレダマ、ヌマトラノオ、ムラサキミミカキグサ、ミミカキグサ、サワギキョウ、オタカラコウ、マアザミ。草地や林縁部の藪化による減少種：ササユリ、カワラナデシコ、フシグロセンノウ、ワレモコウ、ミツマタ、センブリ、リンドウ、ママコナ、オミナエシ、ホタルブクロ、キキョウ。川土手や川原環境の変化による減少種：イチリンソウ、オオバアサガラ。採取圧による減少種：コオニユリ、ササユリ、サギソウ、キンラン、エビネ、ナツエビネ、サルメンエビネ、セッコク、フシグロセンノウ、センブリ、リンドウ、キキョウ。

6. 瑞穂町らしい景観を作る種について

瑞穂町は中国山地北麓に広がる里山の景観をもつ町である。現在、「全町まるごと博物館構想＝エコ・ミュージアム構想」を推進しており、自然とともに生きる町づくりを進めている。その中では、希少種ばかりでなく、里山の景観を形成している普通種にも注目して保護を実践してゆかなければならない。湿地、川辺を含む景観の中で保護の観点が必要である種⑨34種を注目種として挙げた。

瑞穂町の里山林は主にアカマツを伴う落葉広葉樹二次林で、コナラ優先林である。ここに季節ごとに彩りを添える種としてキブシ、タムシバ、コバノミツバツツジ、ヤマザクラ、ヤマボウシ、ヤブデマリ、エゴノキ、ミズキ、ガマズミなどがあるが、これらは個体数も多く保護を必要としない景観種である。一方、個体数の少ない景観種として、アテツマンサク、ダイセンミツバツツジ、コウヤミズキ、ナツツバキ、ミツマタを樹木の注目種として挙げた。特に、ミツマタは町内各所の谷に見られるが、いずれも数個体から十数個体の小群である。かつての石見和紙の生産地としての歴史を語る種としても重要であり、注目したい。

川辺の景観種としては、出羽川を始めとする各川沿いに展開するマダケの竹藪が注目される。

その他、大草や吉時の川土手のイチリンソウの群落や、滝が谷、道明などに咲くオオバアサガラ、伏谷、円の板の河岸に咲くキシツツジなどが重要である。川土手は護岸工事などにより改変を受けやすく、特にイチリンソウは春以外には草体が枯れるため気づかない内に改変を受け消滅してしまう危険性が高い。注目して保護する必要がある。

耕作地周辺の景観は、草刈りが行われる林縁部や法面や畦に代表される。毎年の草刈りが行われる斜面では、秋にはツリガネニンジン、ヒヨドリバナ、オミナエシなどの美しい群落が見られる。その中でも、特に、タムラソウの咲く斜面が各地にあり、瑞穂の特色を形成している。キキョウ、カワラナデシコは非常に少なく、ホタルブクロも多くない。ワレモコウ、オミナエシなどとともに景観種として注目し保護すべきである。その他、ユウスゲ、コオニユリ、ノカンゾウらも景観種として重要であるが、瑞穂町では生育地、個体数ともに非常に少なく、絶滅が危惧される。

7. 特定の昆虫と関係がある種について

特定の昆虫と密接な関係がある注目種として、ミヤコアオイ、ウマノスズクサ、ムラサキケマン、ナガミノツルキケマン、ワレモコウ、アキグミを挙げた。ミヤコアオイは出羽地区などに分布しているが少ない。これを食草としているギフチョウも未確認である。ウマノスズクサも少ないが、食草とするジャコウアゲハとともに上亀谷で確認している。ウスバシロチョウは町内の各所に多いが、ムラサキケマンなどのケマン類は多くはない。田所地区に希少種ゴマシジミが生息する草地があり、幼虫の食草となるワレモコウが生育している。これら特定の昆虫と関係のある植物は、いずれも多くなく、注目種として見守る必要がある。また、チョウ類が吸蜜に集まるアキグミも景観を作る種として保護することが望ましい。

8. その他

本調査では、瑞穂町において426種の種子植物を確認したが、調査は継続中であり、瑞穂町の種子植物は426種に留まらず現在も日々増えていることを付記しておきたい。

謝 辞

本調査をするに当たり、常に温かく見守っていただいた桑野直夫氏をはじめとする瑞穂町町民の皆様と瑞穂町教育委員会に深く感謝の意を表す。また、本稿を起こすに当たり、ご指導をくださった広島大学の中越信和教授ならびに広島県環境保健協会の和田秀次博士にお礼を申しあげるとともに、資料の貸し出しをいただいた広島県環境保健協会に心より感謝する。

摘 要

1. 1997年から1999年にかけて、島根県瑞穂町において植物種とその分布について調査を行い、426種の種子植物を確認するとともに、85種を瑞穂町の注目すべき種子植物として取り上げた。
2. 環境庁、島根県、広島県のレッドデータブックに掲載されている種、14種を瑞穂町内で確認した。

3. 広島県芸北町の注目種と共通の種が多く見られたが、生育個体数は全般的に少なかった。
4. 広島県芸北町の種子植物目録に記載のない瑞穂町の注目種が、15種あった。
5. 瑞穂町において消滅のおそれがある種40種と瑞穂の景観をつくる種34種を保護すべき注目種として取り上げた。

参 考 文 献

- 大井次三郎・北川政夫 1992 新日本植物誌顕花編 1716pp. 至文堂
- 環境庁 1984 指定植物図鑑—中国・北四国編— 1-22pp. 環境庁
- 環境庁 1997 植物版レッドリスト 1-60p 環境庁
- 桑野直夫 1976 生物1 湿地の植物他6編 瑞穂町誌 3 3-24p 瑞穂町教育委員会
- 斉藤隆登・田丸豊生・暮町昌保 1996 広島県における注目すべき種子植物 高原の自然史 1:39-69
芸北町教育委員会
- 斉藤隆登・田丸豊生・暮町昌保 1997 広島県芸北町の種子植物目録 高原の自然史 1:1-44 芸北町
教育委員会
- 島根貴重野生動植物選定委員会 1997 しまねレッドデータブック—島根県の保護上重要な野生動植物—
(植物編) 266pp. 島根県
- 杵村喜則 1993 特定地域野生生物緊急調査事業植物調査報告書 特定地域野生生物緊急調査事
業報告書 1-15 島根県
- 広島県林務部編 1995 広島県の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブックひろしま—
437pp. 広島県

1999年8月31日受付; 1999年12月11日受理

図 版 1

A : マダケ <i>Phyllostachys bambusoides</i> Sieb. et Zucc.	1999年10月20日 和田
B : ノカンゾウ <i>Hemerocallis longituba</i> Miq.	1998年 8月13日 上田所
C : フトイ <i>Scirpus tabernaemontani</i> Gmel.	1999年 7月 8日 伏谷
D : シュロソウ <i>Veratrum maackii</i> Regal var. <i>japonicum</i> (Baker) T. Shimizu	1997年 9月25日 上田所
E : コオニユリ <i>Lilium leichtlinii</i> Hook. fil. var. <i>tigrinum</i> Nichols.	1999年 7月21日 上亀谷
F : シライトソウ <i>Chionographis japonica</i> Maxim	1999年 6月23日 上田所
G : ヌマガヤ <i>Moliniopsis japonica</i> (Hack.) Hayata	1999年 8月27日 鱒淵
H : オニスゲ <i>Carex oligosperma</i> Michx.	1998年 6月16日 下亀谷

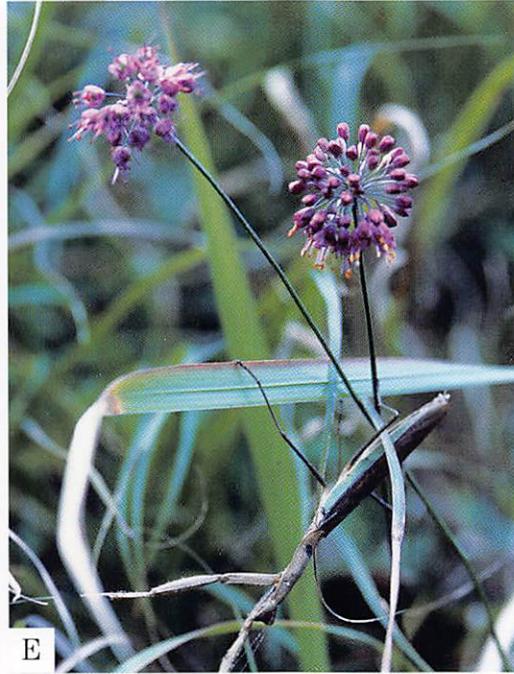
图版 1



図 版 2

- | | | |
|--|-------------|-----|
| A : エンレイソウ <i>Trillium smallii</i> Maxim. | 1998年 4月15日 | 上亀谷 |
| B : ササユリ <i>Lilium japonicum</i> Thunb. | 1998年 6月17日 | 上亀谷 |
| C : トキソウ <i>Pogonia japonica</i> Reichb. fil. | 1997年 7月 7日 | 下亀谷 |
| D : ツチアケビ <i>Galeola septentrionalis</i> Reichb. fil. | 1997年 9月 4日 | 上田所 |
| E : ヤマラッキョウ <i>Allium thunbergii</i> G. Don | 1999年10月20日 | 大林 |
| F : ユウスゲ <i>Hemerocallis vespertina</i> Hara | 1998年 7月11日 | 高見 |
| G : アマナ <i>Tulipa edulis</i> (Miq.) Baker | 1999年 3月13日 | 上亀谷 |
| H : ノハナシヨウブ <i>Iris ensata</i> Thunb. var. <i>spontanea</i> (Makino) Nakai | 1998年 6月24日 | 下亀谷 |

图版 2



図版 3

- | | |
|--|-----------------|
| A : ナツエビネ <i>Calanthe reflexa</i> Maxim. | 1998年 7月11日 下亀谷 |
| B : カキラン <i>Epipactis thunbergii</i> A. Gray | 1999年 7月 7日 下亀谷 |
| C : セッコク <i>Dendrobium moniliforme</i> (Linn) Sw. | 1998年 5月13日 布施 |
| D : クモキリソウ <i>Liparis kumokiri</i> F. Maekawa | 1998年 7月 2日 市木 |
| E : エビネ <i>Calanthe discolor</i> Lindl. | 1998年 5月 6日 上亀谷 |
| F : サルメンエビネ <i>Calanthe tricarinata</i> Lindl. | 1998年 5月 6日 上亀谷 |
| G : ヤマトキソウ <i>Pogonia minor</i> (Makino) Makino | 1998年 7月11日 下亀谷 |
| H : サギソウ <i>Habenaria radiata</i> (Thunb.) Spreng. | 1998年 7月28日 下亀谷 |
| I : キンラン <i>Cephalanthera falcata</i> (Thunb.) Blume | 1998年 5月 6日 布施 |

图版 3

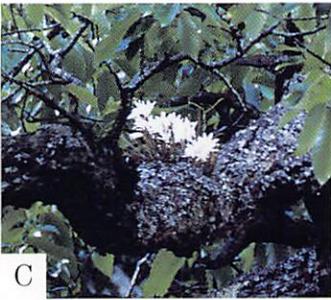
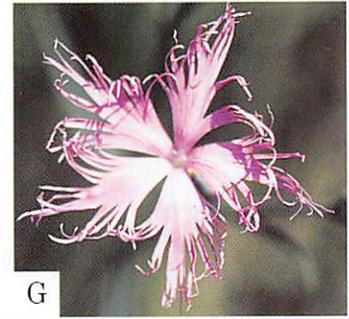


図 版 4

- | | | |
|---|---------------|-----|
| A : ウマノズクサ <i>Arisutolochia debilis</i> Sieb. et Zucc. | 1999年 9月 8日 | 上亀谷 |
| B : エンコウソウ <i>Caltha palustris</i> Linn. var. <i>membranacea</i> Turcz. forma <i>decumbens</i> Makino | | |
| | 1999年 4月 26日 | 布施 |
| C : フタリシズカ <i>Chloranthus serratus</i> (Thunb.) Roem. et Schult. | 1998年 5月 20日 | 八色石 |
| D : フシグロセンノウ <i>Lichnis miqueliana</i> Rohrb. | 1999年 10月 14日 | 和田 |
| E : オキナグサ <i>Pulsatilla cernua</i> (Thunb.) Spreng. | 1999年 4月 26日 | 布施 |
| F : ミヤコアオイ <i>Asarum asperum</i> F. Maekawa | 1999年 8月 30日 | 下亀谷 |
| G : カワラナデシコ <i>Dianthus superbus</i> Linn. var. <i>longicalycinus</i> (Maxim.) | 1998年 5月 13日 | 市木 |
| H : イチリンソウ <i>Anemone nikoensis</i> Maxim | 1998年 4月 15日 | 上亀谷 |
| I : サラシナシヨウマ <i>Cimicifuga simplex</i> Wormsk. | 1999年 10月 1日 | 上亀谷 |

图版 4



- | | | |
|---|-------------|-----|
| A : ムラサキケマン <i>Corydalis incisa</i> (Thunb.) Pers. | 1998年 4月15日 | 上亀谷 |
| B : シラヒゲソウ <i>Parnassia foliosa</i> Hook. fil. et Thoms. var. <i>nummularia</i> (Maxim) T.Ito | 1999年 9月27日 | 上亀谷 |
| C : ヤマブキ <i>Kerria japonica</i> (Linn.) DC. | 1999年 9月22日 | 鱒淵 |
| D : アテツマンサク <i>Hamamelis japonica</i> Sieb. et Zucc. var. <i>bitchuensis</i> (Makino) Ohwi | 1998年 2月26日 | 布施 |
| E : ニワフジ <i>Indigofera decora</i> Lindl. | 1999年 5月27日 | 上田所 |
| F : ビッチュウフウロ <i>Geranium yoshinoi</i> Makino | 1999年 9月 9日 | 和田 |
| G : ワレモコウ <i>Sanguisorba officinalis</i> Linn. | 1999年 9月22日 | 鱒淵 |
| H : モウセンゴケ <i>Drosera rotundifolia</i> Linn. | 1999年 9月29日 | 上田所 |
| I : ナガミノツルキケマン <i>Corydalis raddeana</i> Regel | 1998年 9月30日 | 鱒淵 |

图版 5

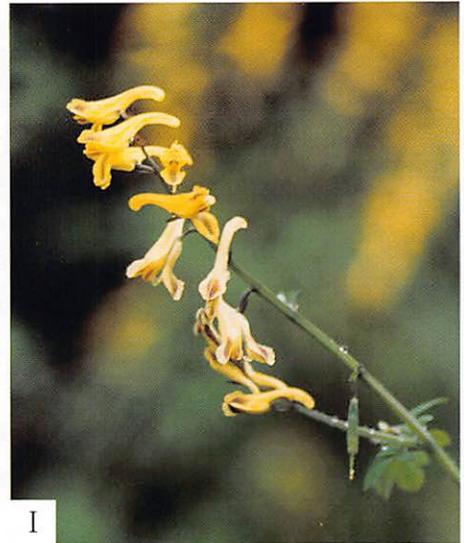
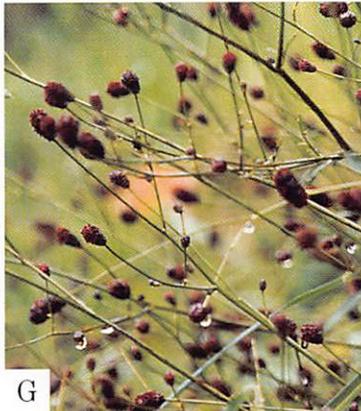
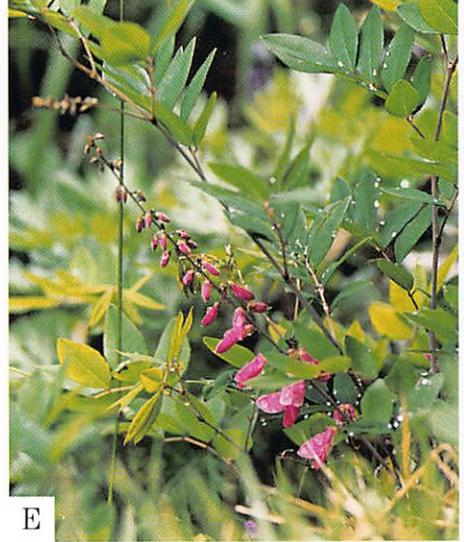
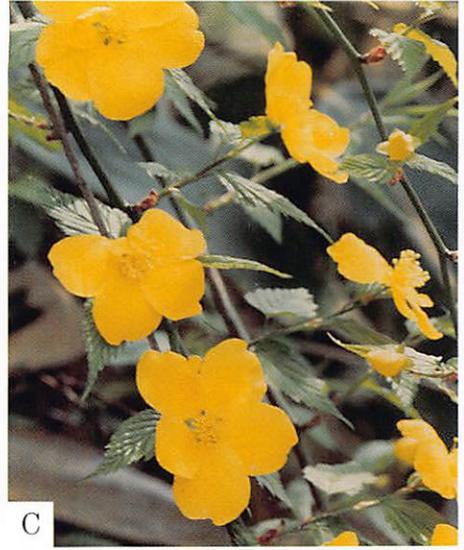
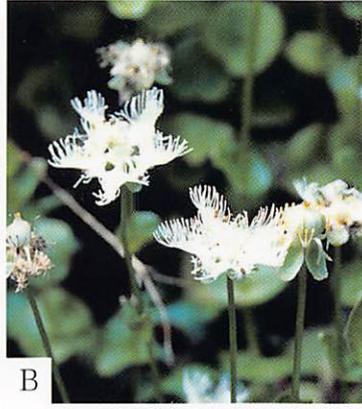


図 版 6

- | | | |
|--|-------------|---------------|
| A : ナツツバキ <i>Stewartia pseudo-camellia</i> Maxim. | 1998年 7月 2日 | 市木 |
| B : ミツマタ <i>Edgeworthia chrysantha</i> Lindl. | 1998年 2月12日 | 布施 |
| C : アキグミ <i>Elaeagnus umbellata</i> Thunb. | 1999年 5月12日 | 久喜 |
| D : シシウド <i>Angelica pubescens</i> Maxim. | 1998年 8月19日 | 下亀谷 |
| E : キツリフネ <i>Impatiens noi-tangera</i> Linn. | 1998年 8月 4日 | 市木 |
| F : コウヤミズキ 実 <i>Corylopsis gotoana</i> Makino | 1999年 8月 2日 | 伏谷 |
| G : コウヤミズキ | 1998年 2月12日 | 瑞穂町布施に接する大和村内 |
| H : オオマツヨイグサ <i>Oenothera erythrosepala</i> Borbás | 1999年 7月 8日 | 下亀谷 |
| I : シラネセンキュウ <i>Angelica polymorpha</i> Maxim. | 1999年 9月22日 | 出羽 |

图版 6

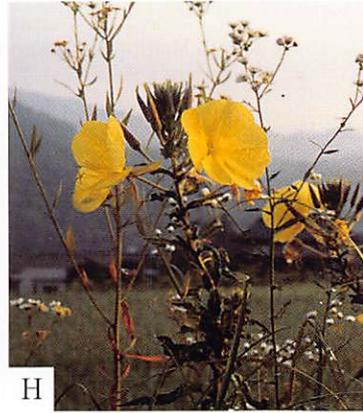
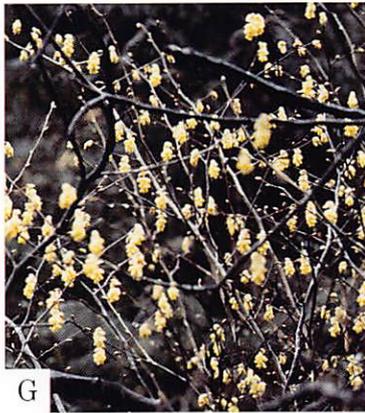
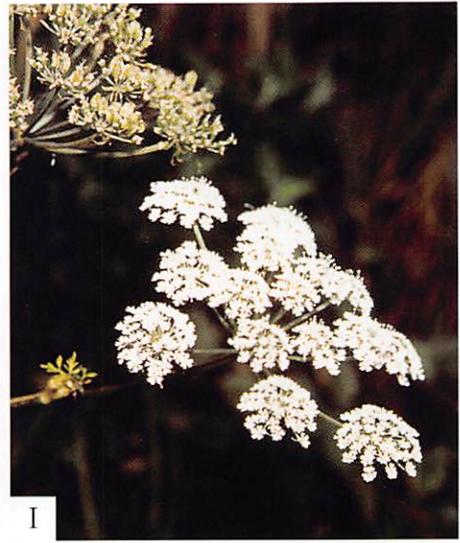
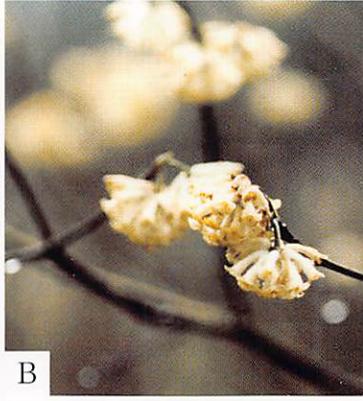
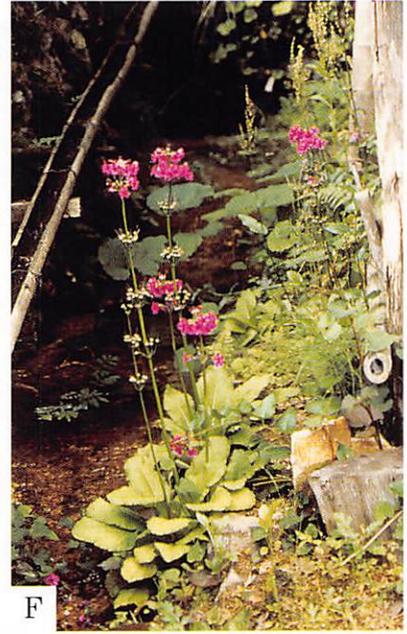
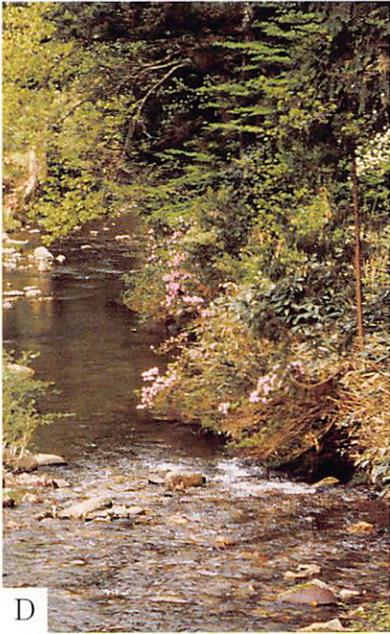
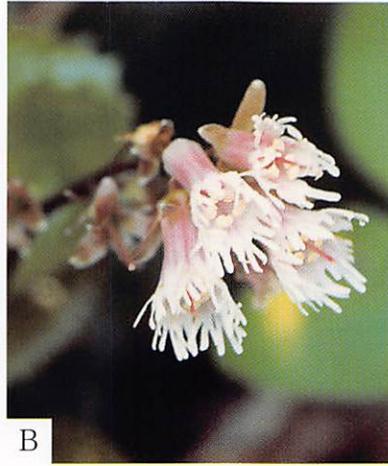


図 版 7

- | | | |
|---|-------------|-----|
| A : レンゲツツジ <i>Rhododendron japonicum</i> (A.Gray) Suringer | 1999年 5月12日 | 岩屋 |
| B : オオイワカガミ <i>Shortia soldanelloides</i> (Sieb. et Zucc.) Makino var. <i>maguna</i> Makino | 1999年 5月13日 | 市木 |
| C : バイカツツジ <i>Rhododendron semibarbatum</i> Maxim. | 1999年 6月23日 | 上田所 |
| D : キシツツジ <i>Rhododendron ripense</i> Makino | 1998年 4月28日 | 高見 |
| E : クサレダマ <i>Lysimachia vulgaris</i> Linn. var. <i>davurica</i> (Ledeb.) R.Knuth | 1999年 8月 2日 | 伏谷 |
| F : クリンソウ <i>Primula japonica</i> A. Gray | 1997年 6月 3日 | 上田所 |
| G : ヌマトラノオ <i>Lysimachia fortunei</i> Maxim. | 1999年 8月27日 | 鱒淵 |
| H : ダイセンミツバツツジ <i>Rhododendron lagopus</i> Nakai | 1998年 4月28日 | 久喜 |
| I : オオバアサガラ <i>Pterostyrax hispida</i> Sieb. et Zucc. | 1997年 6月 3日 | 市木 |

图版 7



A : リンドウ *Gentiana scabra* Bunge var. *buergeri* (Miq.) Maxim.

B : センブリ *Swertia japonica* (Schult.) Makino

C : キバナアキギリ *Salvia nipponica* Miq.

D : フデリンドウ *Gentiana zollingeri* Fawcett

E : ナンバンギセル *Aeginetia indica* Linn. var. *gracilis* Nakai

F : ムラサキミミカキグサ *Utricularia uliginosa* Vahl

G : ミミカキグサ *Utricularia bifida* Linn.

H : デワノタツナミソウ *Scutellaria muramatsui* Hara

I : ママコナ *Melampyrum roseum* Maxim.

J : アケボノソウ *Swertia bimaculata* (Sieb. et Zucc.) HOOK et Thoms.

1997年11月20日 八色石

1999年10月20日 和田

1999年10月5日 市木

1998年4月15日 上亀谷

1999年9月27日 岩屋

1999年9月27日 岩屋

1999年8月6日 下亀谷

1998年4月8日 布施

1997年7月16日 下亀谷

1999年10月5日 市木

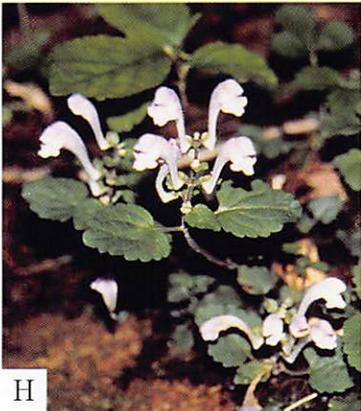
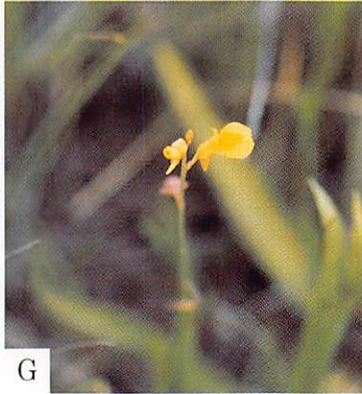
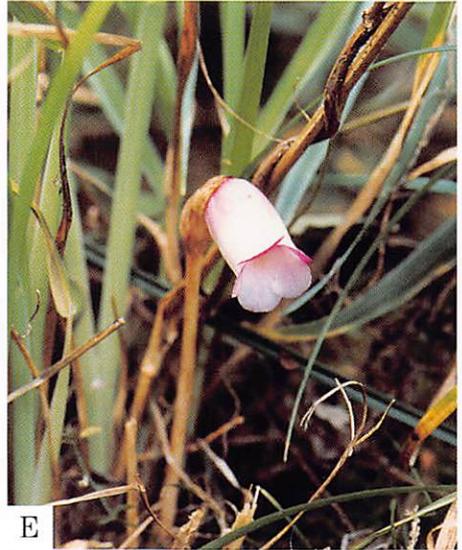
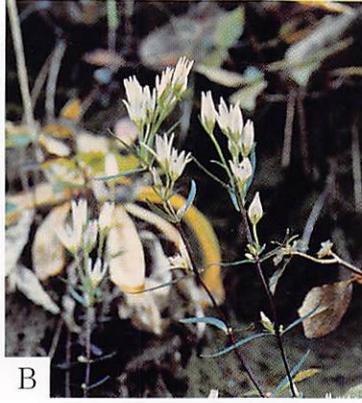


図 版 9

- | | |
|--|-----------------|
| A : タムラソウ <i>Serratula coronata</i> Linn. var. <i>insularis</i> (Iljin) Kitam. | 1998年9月9日 上田所 |
| B : オミナエシ <i>Patrinia scabiosaeifolia</i> Fisch. | 1998年9月9日 上田所 |
| C : オタカラコウ <i>Ligularia fischeri</i> (Ledeb.) Turcz. | 1997年10月1日 上田所 |
| D : マツムシソウ <i>Scabiosa japonica</i> Miq. | 1999年9月29日 岩屋 |
| E : キキョウ <i>Platycodon grandiflorum</i> (Jacq.) A.DC. | 1999年8月2日 伏谷 |
| F : サワギキョウ <i>Lobelia sessilifolia</i> Lam. | 1999年8月19日 伏谷 |
| G : ナベナ <i>Dipsacus japonicus</i> Miq. | 1997年9月4日 上田所 |
| H : マアザミ <i>Cirsium sieboldii</i> Miq. | 1999年10月14日 上亀谷 |
| I : ホタルブクロ <i>Campanula punctata</i> Lam. | 1998年6月16日 伏谷 |
| J : リュウノウギク <i>Chrysanthemum makinoi</i> Matsum. et Nakai | 1997年10月30日 市木 |

